

製品名: FGFR-4 (リン酸化 Tyr642) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04670**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	90kDa

抗原情報

遺伝子名	FGFR4
別名	FGFR4; JTK2; TKF; Fibroblast growth factor receptor 4; FGFR-4; CD antigen CD334
遺伝子 ID	2264.0
SwissProt ID	P22455
免疫原	ヒト FGFR-4 のリン酸化部位（リン酸化 Tyr642）周辺の合成リン酸化ペプチド

背景

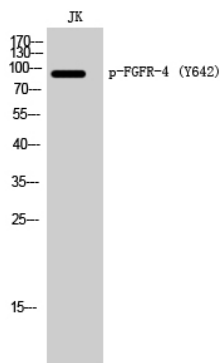
この遺伝子によってコードされるタンパク質は線維芽細胞増殖因子受容体ファミリーのメンバーであり、アミノ酸配列はメンバー間および進化を通じて高度に保存されています。FGFR ファミリーのメンバーは、リガンド親和性と組織分布において互いに異なります。

す。代表的な全長タンパク質は、3つの免疫グロブリン様ドメイン、1つの疎水性膜貫通セグメント、および細胞質チロシンキナーゼドメインからなる細胞外領域で構成されます。このタンパク質の細胞外部分は線維芽細胞増殖因子と相互作用し、下流のシグナル伝達経路を活性化させ、最終的には有糸分裂誘発と分化に影響を与えます。この遺伝子のゲノム構成は、メンバー1~3と比較して、19や20ではなく18のエクソンを包含します。選択的スプライシングが観察されていますが、IgII触媒活性のC末端側半分がATP + a [protein]-L-チロシン = ADP + a [protein]-L-チロシンリン酸であるという証拠はありません。機能:酸性線維芽細胞成長因子の受容体。塩基性線維芽細胞成長因子には結合しません。FGF19に結合します。PTM:グリコシル化されています(類似性による)。チロシン残基がリン酸化されています(類似性による)。リン酸化には機能的(リン酸化)FGFR1の存在が必要であり、必ずしもFGFRヘテロ二量体化によるものではありません。類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Tyrタンパク質キナーゼファミリー。線維芽細胞増殖因子受容体サブファミリー。類似性:1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。類似性:3つのIg様C2型(免疫グロブリン様)ドメインを含む。細胞内局在:アイソフォーム2は分泌される可能性がある。サブユニット:KLBと相互作用する。組織特異性:消化管上皮細胞、膵臓、胃癌および膵臓癌細胞株で発現する。、

研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;エンドサイトーシス;アクチンと細胞骨格を制御します。

画像データ



リン酸化FGFR-4 (Y642) ポリクローナル抗体を用いたJK細胞のウェスタンブロット解析